

東日本大震災からの復興報告（福島県沿岸）

東北工業大学工学部 都市マネジメント学科
名誉教授 村井貞規

東日本大震災後の5年間、岩手県、宮城県の沿岸地域の被災状況とその後の変化を撮影した写真を数度に渡り学科のHPで報告してきました。その一方で原発の影響が今ひとつ掴めないこともあって、福島県の沿岸被災地にはこれまで行きそびれていましたが、幸いにも福島県の御協力を得て、ようやく6年目（2016年）に北部の新地町、相馬市、南相馬市を、7年目（2017年）に南部の広野町、いわき市の状況を日本大学工学部堀井教授と共に視察することができました。これらの間の都市は抜けていますが、福島県浜通りの北部と南部の状況を確認したことから、これまでと同様に撮影した写真等を整理して報告します。被災時からかなりの時間が経過していることもあり、タイトルを「東日本大震災からの復興報告（福島県沿岸）」とし、被災状況や復興計画の概要については県の了解を得て配布された資料の一部を付録として添付しました。

北部沿岸地域の視察は、福島市から国道 115 号を通り福島県最北端の新地町に向かい、そこから海岸線を南下して相馬市、南相馬市に入り、県道原町川俣線を通って再び福島市に戻るというルートでした。まず気になったのは福島市あたりから至る所に野積みされている黒い袋に入った放射能汚染廃棄物で、被害の広がりや深刻さを感じないわけには行きませんでした。新地町では、町役場の東に広がる分譲するばかりになったという宅地など沿岸部の復興地区を町役場のベランダから展望しました。その後海岸近くに建てられた「工事見学展望台」の上から周囲を撮影しましたが、展望台の周りは未だに整地された更地が広がっているのみでした。相馬市でも移転新築された相馬港湾建設事務所の屋上から沿岸部の状況を展望しました。そこから見た限りでは海際の道路や堤防などインフラの整備はかなり進んでいましたが、その周辺はやはり整地されてはいるものの更地が目立ち、今後の具体的な姿はまだはっきりとは見えない状態でした。南相馬市では市北部の沿岸部を通る県道 74 号の改修工事を視察し帰路につきました。当時の南相馬市の西側は居住制限区域と帰還困難区域に、南側と西側の一部は避難指示解除準備区域に指定されており、車中から見たのですが南相馬市の街並みはひっそりとして人の気配もなく、改めて原発の影響の大きさを感じました（視察日は6月17日。避難指示解除準備区域、居住制限区域は2016年7月12日に解除）。

南部沿岸地域の視察は郡山市から磐越自動車道、常磐自動車道を通り広野町に向かい、そこから海岸線を南下していわき市に入り、再び高速を通って郡山市に戻るルートでした。今年の夏は、東北地方太平洋側は天候不順で雨勝ちの日が多く、視察日も雨が心配されましたが、幸いにもほとんど傘が必要ない程度の空模様で、それなりの写真を撮ることができました。広野町の「ひろの防災緑地」は造成された海岸堤防の西側斜面に多様な種類の植物が密度濃く植樹されており、今後の成長が待たれます。いわき市では北から順に「道の駅よつくら港」、「滑津川河口堰」、「薄磯地区」、「豊間地区」、「小名浜港」と多くの沿岸

地区を案内してもらいました。2012年にリニューアルした「道の駅よつくら港」では道の駅のふれあい広場前の防波堤の一部が未だ建設中で、川を隔てた南側の防波堤には緑化のための土が被せられつつあるところでした。福島県有数の海水浴場のある「薄磯地区」は、陸側の宅地造成とともに海岸堤防と沿岸道路、駐車場が整備され、ようやく今年「海開き」したとのことでした。またすぐ南の塩屋埼灯台の麓の美空ひばりの碑は津波の影響を受けずに無事残っていました。「豊間地区」では諏訪川河口に架けられた橋梁上から補強された護岸、橋梁の取り付け道路や辺りの整備状況を確認し、小名浜港では埋め立て中の人工島と3号埠頭を繋ぐ今年竣工したマリナブリッジの途中まで行って橋や湾内を撮影して来ました。

今回の視察は年をまたいだこともあって、それぞれの地域で進捗状況には差があるものの着実に復興が進んでいることを実感しました。しかしその一方で原発のせいで全く手付かずの所もあることは想像に難くありません。復興に当たられている方々の困難と苦労を思わずにはいられない足掛け2年の視察でした。なお、北・南何れの視察でも海岸線の状況だけでなく移動ルート途中の橋梁やトンネル、道路の新設現場なども見学させてもらっているのですが、津波被害を中心にした沿岸部の写真に限定して掲載しました。

本報告でもこれまでと同様に写真撮影した代表的な位置を黄色の点として示した Google Earth の図を、各地域の最初に入れておきました（ほぼ2kmの高度のものを使用）。同じ地点から複数の方角を撮影したものについては基点を中心に右回りに写真を並べています。

この報告について何かご質問・ご意見がありましたら smurai@tohtech.ac.jp に連絡して下さい。最後に2年に渡りご協力頂いた福島県関係者の方々に深甚の謝意を表します。（自身が撮影した写真以外はそれぞれの映像の下に取得日、URLを括弧で表示）

福島県北部（2016年6月17日）

新地町

新地町役場（左下）



（2015年11月12日）

新地駅周辺市街地復興整備事業のパネル



役場内に置かれた被災前の沿岸部の模型



新地町沿岸部の主な事業（逆向き）



役場ベランダから海岸方面を撮影



左の写真を拡大 宅地造成地 奥が新地駅



工事見学展望台（右上）



(2015 年 11 月 12 日)

南西側



海岸近くに建てられた工事見学展望台から
6 年目でようやく整地が終了か



西側



北西側



北東側



南側



東側



南西側



南東側



相馬市相馬港
相馬港湾建設事務所



(2015年11月12日)

西側



原釜小浜防災緑地概要図



北北西側



北側



東側



東南側



南相馬市
中堤 県道 74 号



(2015 年 11 月 12 日)



福島県南部（2017年9月6日）
 広野町

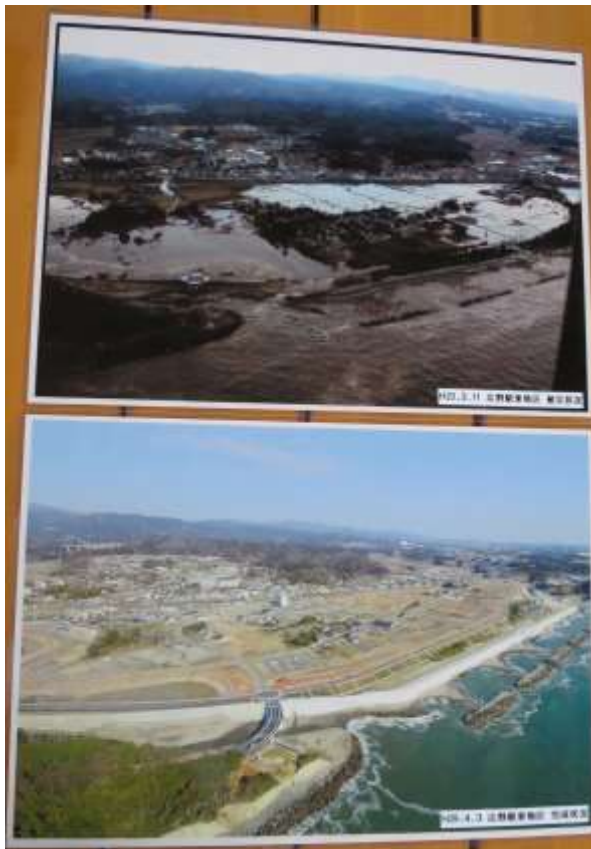


（2015年6月1日）

ひろの防災緑地案内図*



被災時と復旧後(2017. 4)



北側（左側 防災緑地，右側 海岸）



南側



防災緑地

南西側



北側



西側（正面が広野町役場）



いわき市
道の駅よつくら港



(2015 年 6 月 1 日)

道の駅脇の境川ゲート



「四倉ねぶた」の格納庫



防波堤の被覆と緑化



建設中の防波堤



滑津川河口



(2014 年 3 月 24 日)



滑津川河口のゲート周り 遠隔操作のできるゲートに更新



薄磯地区

右下が塩屋埼灯台



(2014年3月24日)

左は防災緑地



被害状況



海岸に向かう



多重防御による被災地復興



今年から海水浴場が解禁



塩屋埼灯台



北側の海水浴場の駐車場



南側



南西側



塩屋埼灯台下の美空ひばりの碑
津波で流されなかった



灯台への登り口



豊間地区



(2014 年 3 月 31 日)



被災状況*



多重防御による被災地復興*



諏訪川護岸の補強



諏訪川河口の橋上から
北北西側



東側河口



北側



南東側



北東側



南側



小名浜港



(2016 年 5 月 18 日)

湾内と三崎方面



小名浜東港マリナブリッジから
北西側 アクアマリンふくしま



東側 マリントワー



小名浜 マリンブリッジ



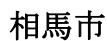
(www.pa.thr.mlit.go.jp)

橋中央へ



橋の先の人工島



[illegible]

南相馬市



被災時の状況
津佐萱浜地区海岸



復旧・復興工事の状況
北原小高線

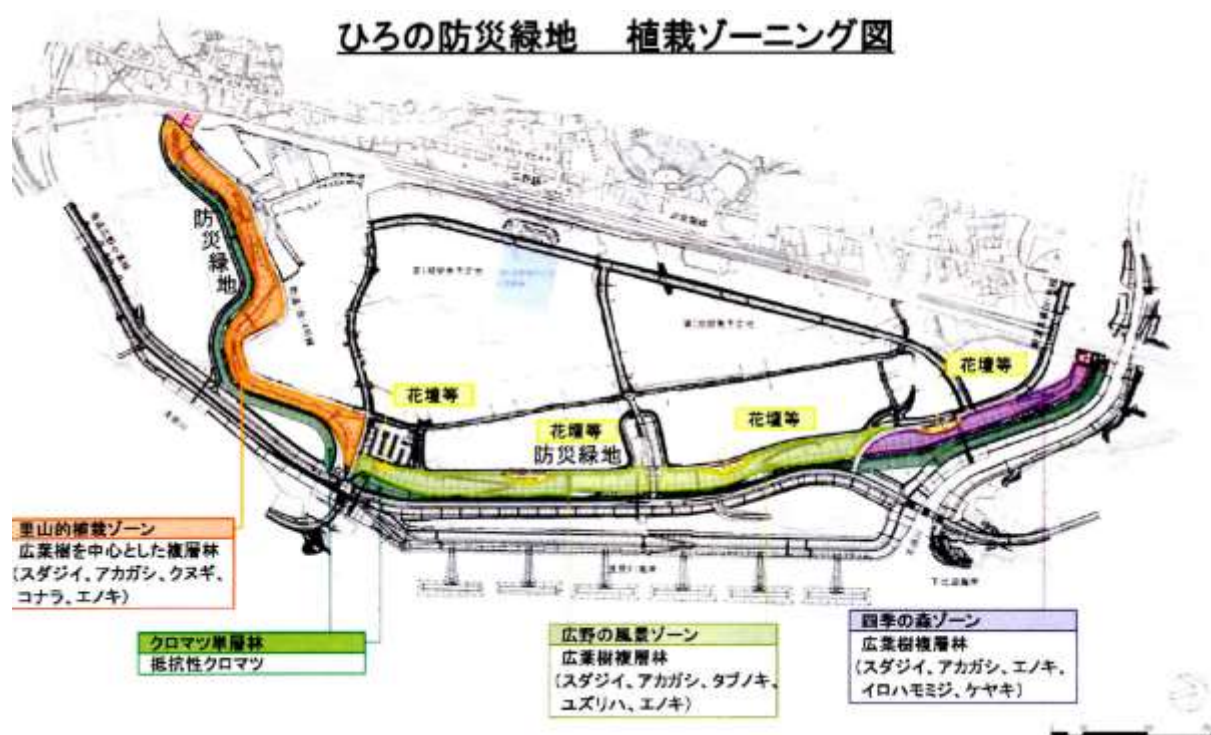


復旧・復興工事の状況 (津佐萱浜地区海岸)



広野町

ひろの防災緑地 植栽ゾーニング図



被災状況写真[3月11日地震] 【薄磯地区】

地区の位置

いわき市

震災前

富神崎

【薄磯地区の被害状況】

- ・津波高 8.5m
- ・浸水区域の全戸数 334戸
- ・大規模半壊以上 301戸 (87.5%)
- ・津波による直接死者数 103名

震災後

富神崎

海岸堤防

海水浴場

文間中学校

浸水区域

被災状況



豊間地区



[illegible]